

令和6年度 第1回 河北町総合教育会議 会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、榎 ふみえ、庄司 泰寛

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 宇野 勝、生涯学習課長 秋場 弘昭

教育主幹(兼)指導主事 吉田 仁志、指導主事 鈴木 玄輝

教育総務係長 齋藤 淳、教育振興係長 後藤 理子

3 日 程

令和7年1月23日（木）午後3時10分 開会 河北町役場 3階 302会議室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

(1) 河北町立小中学校の整備について

4 その他

5 閉会

1 開会

齋藤係長

只今より、令和6年度 第1回河北町総合教育会議を開催いたしたいと思
います。はじめに町長あいさつを森谷町長よりお願いいたします。

2 町長あいさつ

森谷町長

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。小学校のあり方について、検討委員会から令和5年12月に答申が出され、それをもとに基本方針が策定されました。今後基本計画、実施設計と進んでまいります。小中学校というと、町にとって大きな課題であり、新病院の整備と併せて、町民の皆様も非常に関心が高いと思います。一校にするという方向付けについては、かなり理解が進んでいるかと感じております。いろんな声があるかとは思いますが、一校にする、大体そういう方向の意見が多かったと感じております。いや、むしろもっと急ぐべきじゃないのかっていうような意見さえあったと思います。小学校のあり方、統合するっていうことについて検討してきたところに、中学校の老朽化問題、中学校の生徒が減っている状況があり、小中と一緒に整備していくことについても、財政面も含めて現実的な姿として議論していき、議論や理解をより深めて、その先にこれからのしっかりした教育基盤の姿を提示していくことが大事かと思います。先送りできない課題だと思います。教育だけに留まらずに、街づくり、コミュニティーづくりにも、今の学校の校舎利活用も含めて大きな課題に繋がって参りますので、しっかりそこは見据えて、児童生徒の学びの環境づくりを議論の出発、原点として、魅力のある河北町らしい誇れるものとして、河北町で学んでいきたいと思えるような魅力ある義務教育ができるように、そういった気構えで、この問題に私たちも取り組んでいきたいと思っております。

12月24日に議会から政策提言をいただきまして、今回は、防災力の向上、産業振興、若者のまちへの定着とか働く場所の確保、人口減少対策ということで、どういうふうに関人口流出に歯止めをかけていくか、移住定住したいまちづくり、町の財政運営についてが1つ目の提言としたもので、2番目の提言として、教育関係があります。1つが、部活動の速やかな地域移行についてということで、2つ目は小中一貫校について、もう一つが教育委員会所管ではないですけども、移住定住に向けて旧町民プール跡地の住宅整備であります。小中一貫校についての内容ですが、新校舎整備にかかる概算事業費などについて、学校整備委員会で十分検討し、基本構想・基本計画の策定を進めること、新たな学校における特色ある教育を進めること、3番目として、保護者や地域の方々、学校関係者へのご理解と

丁寧な説明をしていくこと、4番目は、基本方針の策定過程においていただいた多くの意見について、基本構想・基本計画及び第8次総合計画後期基本計画などにおいて、議論検討していくこと、最後に、河北町立小学校の整備に向けた基本方針、その後策定される基本構想・基本計画を令和8年度に策定する第3次河北町教育振興計画に反映させ、これからの河北町を担う子どもたちにとって最適な学びの環境を構築することの5点になります。ご承知おきいただければありがたいと思います。

今日の議題になります、この学校の整備に向け、整備委員会を設置し、この整備委員会での議論を、町民の方、地域の方、保護者にしっかりフィードバックしながら、議論を丁寧に進めていく必要があると考えております。これからの基本構想或いは基本計画の策定に向け、本日の議論をもとに、共通認識に立って、議論のスタートとしていきたいと思いますので、本日はよろしく願います。

齋藤係長

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、森谷町長をお願いいたします。

3 協議

森谷町長

それでは協議(1)の河北町立小中学校の整備について、事務局からお願いします。

吉田教育主幹

昨年の11月14～15日と、私と後藤係長と、教育振興係の阿部総括主任、教育総務係の須藤主任で東京の先進地に研修に行つて参りました。訪問先は練馬区のみらい青空学園、杉並区の高円寺学園という2箇所に行つて来ました。ただ練馬区のみらい青空学園は、現在建設中ということで、学校は拝見出来ませんでした。が、区の委員会の方からお話を伺つて来ました。高円寺の方は実際その校舎の中に入つて、その様子なども見せていただきました。

練馬区のみらい青空学園から説明させていただきます。こちらの資料は小中一

貫校だよりというものを、練馬区で発行しており、こちらは Vol. 8 で、統一学園名が「みらい青空学園」に決まりましたというものです。みらい青空学園は通称で、それぞれ学校名があるそうです。練馬区の取り組みとしましては、小中一貫教育について、小学校と中学校との連携、9 年間を見通した指導方針のもとで子供たちを育てることを、これまでも実施してきたそうです。それで、平成 23 年に区内で 1 校目となる一貫校の「大泉さくら学園」を開校したというところで、10 組の小中学校の研究グループを指定して、小中一貫教育に研究を進め、平成 27 年度から全中学校区で、小中一貫教育の取り組みを進めているとのこと。義務教育学校にしないのかと質問したところ、1 校を義務教育学校にすると、区方針として全部の学校を義務教育学校しなければならないこともあり、これまでの大事にしてきた一貫教育を実施する学校ということで、一貫校にしたそうです。

進捗状況は、旭ヶ丘・小竹地域の 2 つが、この学校の学区になり、学区の中に 2 つの小学校、中学校 1 校旭ヶ丘中学校があり、3 校とも小規模校かつ築年数が 50 年を超えており、老朽化解消、また、学校規模が小さくなっていることから、施設の一体型の小中一貫教育校を再編する方針を策定しました。

新しい学校は旭ヶ丘中と旭ヶ丘小学校の敷地ということで、道路を隔てた 2 つの敷地となり、2 つを合わせた計画が必要となり、それぞれ校舎棟・体育館棟として敷地をそれぞれ分けて、道路上を渡り廊下で繋ぐ形で計画されております。また学校だけでなく、複合化施設として学童、児童館、地域包括支援センターなども設置予定ということです。練馬区の取り組みとして、開校に向けて令和 2 年度に基本設計、その後実施設計、建設、開校予定となります。

校舎棟は 4 階建て、体育館棟は 2 階建てで、延べ床面積は 1 万 4000 m²、敷地面積が 2 万 8,225 m²、プールは室内、給食は自校調理、全体で工事費は 82 億円になります。

学校規模については、小竹小が各学年 2 つクラス、特別支援学級はないそうで、児童数は 314 人になります。旭ヶ丘小学校は学年によって 1 クラスもしくは 2 クラス、支援クラスが 3 クラスで 199 人となっております。旭ヶ丘中学校は各学年 2 クラスで、支援クラスが 3 クラスで 164 人ということです。

みらい青空学園の完成予定図として、グラウンドを2つ有しています。教室棟と体育館棟があり、体育館棟には室内プールや武道館、特別教室があり、渡り廊下で校舎と校舎を繋いでいる状況になります。

これまでの経過ですが、基本設計1年、実施設計2年、そして建設という経過になります。施設の設置形態については分離型という方法もあるが、一体型でないと、小中間の先生方の温度差が生まれやすいというようなデメリットもあるということです。担当者のお話だと、施設一体型小中学校の方が、優位性があるのは間違いないが、良さについてなかなかアピールしづらい、いろいろなところで連携ができるところはあるが、具体的な数字に表そうとすると、やっぱり人でするので、なかなかそこは数字にはちょっと表れにくいというようなところではもどかしいとお話しでした。

続いて小中一貫校の高円寺学園になります。こちらは実際に中に入って見えました。こちらの方は杉並区になります。小中一貫教育については、こちらの方は適正規模の基準っていうのが、もともと区で定めており、その方針に沿って進めたということです。

こちらの方では懇談会を設置して進めたということです。この懇談会の中で先ほど触れましたが、地域住民との合意形成、2つの学区間でもととの文化の違いがあったため、最初は統合自体に対する反発もあったようです。議論を重ねていく中で、徐々にこれからの子供たちの夢を共有しようとか、町の誇りになれるような学校にしようという連帯感が生まれて、統合についてはどんどん進んでいったというような経過です。

こちら具体的な杉並区の取り組みで、平成27年度基本設計その後実施設計、建設、校舎解体、外構工事等々で、開校は令和2年です。こちらは、既存校舎を運営しながら、仮設校舎を作らずに、グラウンド部分に新校舎を建設していたということです。地下1階、地上6階建てで、全体の工事は約76億円だそうです。

廃校後の校舎については子ども園と区立の科学館として活用しているそうです。高円寺学園の延べ床面積は18,424 m²、敷地面積が11,298 m²で、敷地が狭い部分上と下伸びている感じです。

学校規模ですが、令和5年度の数字ですけれども、小学校は各学年3クラス、

支援クラスが1クラス、612名で、中学部が各学年3クラス、支援クラスが1クラスで、172名になります。それで890名弱ぐらいですので、令和13年度の河北町だと700から800ぐらいの間なので、規模としては似ているかと思います。

実際の内部になりますが、学童のスペースが1階の中に入っておりました。あと給食室調理室、PTA室、学校支援本部など、外部の方が入るような仕組みになっておりました。別室登校の生徒の教室もあり、昇降口からも近く、教育相談室とか保健室も近いというようなところで、校舎に入りやすいような環境も整えられておりました。2階には貸し出しの部屋がたくさんあり、外部の会議も学校の中の会議室を使ってやれるというような仕組みになっております。また、学校の中にはエレベーターが3台ございました。教員用、社会体育用に1台、生徒用に2基となっております。6階には、屋内プールがあり屋根が開くそうです。この前の夏はとても暑かったそうですが、屋根を閉めると暑さはほぼ感じないっていか、非常に快適にできたとのことでした。夏には区民に、住民の方に無料で開放しているそうです。先ほどの社会体育用のエレベーターを使用して、ここまで来て泳げるというような仕組みになっているそうです。アリーナの一般利用も多くて、利用受け付け等は外部委託しているようです。一般向けのコインロッカーなども設置しているとようです。

職員室は小中一緒の職員室でした。中学校籍の方が学園長、小学校籍の方が副学園長ということで、それぞれ小学校中学校ごとに教頭先生が2名という管理職の体制でした。ここでも小学校の先生と中学校の先生一緒だから、子供の生徒指導上の情報交換とか、教科の授業のこととか、結構なんか気軽に聞けていいとお聞きしました。第2体育館は災害発生時、避難施設として活用できる施設となっており、防災倉庫が併設されており備蓄品があり、非常時の対策もかなり取られていました。自家発電装置や防災井戸、マンホールトイレなどの防災設備も備わっているというようなことでした。昇降口を入ったところのフロアは交流ホールとなっており、地域の方が、地域の阿波踊りがあるそうで、その練習なんかで活用しているとのことでした。図書室は小中共用になります。ランチルームという名の多目的室もありました。放送設備もあり、地域の方にも開放して各種研修会にも利用しているようです。廊下には所々にベンチスペースがあり、子供と先生

方でも話し合えるようなところもあったり、個別学習コーナーというのがあったり、クールダウンスペースとして、休み時間友達と語り合ったりできるというような場所もそれぞれのフロアにありました。音楽室は、段差のついた音楽室で、吹奏楽や合唱などでは、みんなの顔を見ながら練習できるというような、作りになっておりました。教室が基本的に学年で、3つぐらいの教室があり、廊下側の教室の壁面が抜ける、可動式の壁となっている教室で、その教室を使わないときには学年のフロアみたいな大きく使えたり、例えば研究授業などで、たくさんの先生が来たときに、その教室でやるとその授業を見られるというように、うまく考えられていると感じました。屋上には、田んぼを作っていて、飯豊町の方が協力して稲を育てているとのことでした。屋上にテニスコートもあり、うまく施設の活用をしていると感じました。

杉並区の取り組みとでメリット、デメリットを伺いましたところ、メリットとしては、年間見通した教育、学力の向上、授業の質が上がる、やさしい子が育つ、あと学校が荒れづらくなる、小中間の情報共有がすぐできるため、生徒指導的な課題解決がしやすいということです。デメリットは特にないと言っておられましたが、強いて言うならば、やっぱり小中学校で授業時間が違う、時間の組み方が違うので、交流をするときには調整が必要だというようなところでした。6年生がちょっと育ちにくい面もあるが、6－3制をとっているので、節目を大事にした取り組みをしているとおっしゃっていました。

森谷町長

学校が荒れづらくなるとはどういったことか話がありましたか。

吉田主幹

小さい子の面倒を見なければならない、中学生がお手本になるということですね。

カッコいいところ見せたいとの気持ちもあるようです。

板坂教育長

日常的に小中学生が交流する場面っていうのは、あるのですか。

吉田主幹

休み時間は、図書室なども共有スペースとしてあるので、日常的に上の学年の子供達は下の学年の子供たちとの交流はあるかと思います。

吉田主幹

これから進める自治体へということでお話もありました。反対意見については複合的に対応することで、反対意見だけに対して回答するのではなく、良いところをきちっと整理して、総合的に考えるとどうなのかをお伝えしていくのが大事ということでした。子供のために自分たちで何ができるのか、結果をすぐ求められがちですが、結果はすぐにはなかなか出ない、新しい学校が出来て最低9年間はその取り組みを進めていくことで、初めて検証といいますか、成果が得られるのではないか、というお話でした。

施設一体型の方が費用はかかるが、設置形態として分離で小中が分かれて一貫教育を進めるよりは、1つの場所で、小中の先生方が力を合わせて、そして地域も巻き込んでやっていくというところがとても大事なんじゃないかというようなお話でした。

以上で終わります。

森谷町長

私もこの報告があった際に、実際に先行しているところの現場がどういった状況なのか、これから我々が考えていく上で、リアリティを持って問題を議論していくことが必要だと思いました。

今の報告に対して皆様から、質問や確認があればお願いします。

(特になし)

森谷町長

それぞれが持っている情報の中でいろんな考え方が出てくると思います。推進することや、統合への懸念などを具体的に共有しながら議論を重ねて、理解し方

向性を示して行ければと考えております。

続いて、事務局からお願いします。

後藤係長

今後のスケジュール等について、説明させていただきます。

今後、教育委員会では、基本方針に基づきまして、より具体的に基本構想、後期基本計画というものを策定していく予定となっております。その際、学校整備委員会という委員会を設けまして、関係者の方々と、計画策定に必要な事項について、ご意見をお聞きして、検討していきたいと考えております。

資料の1番目は先ほど教育委員会にお諮りした、設置要綱を規定であります。学校整備委員会の1回目の会議を来週木曜の1月30日に開催する予定でして、資料の2番目に委嘱する予定委員の方の名簿をつけさせていただいております。1番の方は学識経験者ということで、あり方検討委員会から引き続きお願いしております。2番から7番の方については、地区住民の代表の方ということで、区長会の各支部の方をお願いをしております。8番と9番は小中学校長ということで、西里小の校長である須藤先生と河北中校長の鈴木先生をお願いしております。10番から15番までの委員の方は、未就学児または児童の保護者を代表する方ということで、各地区から1名ずつを選んでおります。16番は、保育施設の設置者代表ということで、河北幼稚園の安達園長をお願いしております。17番は、学童クラブの指導者代表ということで、南部のさくらクラブの鴨田施設長さんをお願いをしたところであります。

資料の3番をご覧ください。これまでの経過についてまとめたものを載せております。簡単に説明しますと、令和4年の5月に、あり方検討委員会設置しまして、令和5年の11月までに、合計7回検討委員会を開催しまして、その間に、町民の方へのアンケート、また地区懇談会、町民参加型の検討委員会を開催しまして、令和5年の12月に答申をいただいているところであります。答申を元にしまして令和6年の1月に教育委員会では、河北町立小学校の整備に向けた基本方針の素案を策定しまして、その後、2月に地区の説明会、今年度に入って4月から6月にかけては、各こども園、幼稚園において説明会を開催し、幼稚園、こど

も園の保護者の方にWebでのアンケートをお願いしたところであります。それを受けて8月に基本方針の案を作りまして、9月にパブリックコメントを実施したところ、19名の方から52件の意見をいただいております。そして、10月に基本方針を策定したところであります。

内容としまして、設置形態は小中一貫型小学校中学校とするということで、経営方針は、小中一貫教育を柱とする。9年間を見通した教育課程を編成し、系統的教育を実施する。学校の新築、新設、改築については、町内の小学校1つに統合し、新たな小学校を整備する。老朽化が進む河北中学校の校舎整備もあわせて行い、施設形態を施設の一体型として、最短で令和13年4月の開校を目指すという方向性を示したところであります。

資料の4番は、今後のスケジュールをまとめたものになります。今年度は、1月から基本構想・基本計画の策定に入ります。学校整備委員会を立ち上げ、来年度の11月ぐらいまでにかけまして、委員会を開いて検討を重ねていきたいと思っております。こちらの基本計画・基本構想の策定はコンサルに委託しまして、いろいろお手伝いしていただく予定です。令和8年度からは、基本設計、令和9年度に実施設計を行い、令和10年度から12年度にかけて工事、令和13年度に開校の予定となっております。並行して、学校開校の準備委員会というものを作る予定で、その中で、もっと具体的な制服であったり、校歌であったり、いろんな具体的なところを、協議していく予定であります。学校整備委員会の今後のスケジュール案としましては、来週30日に第1回の委員会を開きまして、今後のスケジュールやこれまでの経過等の説明をさせていただきたいと思っております。3月に2回目を開きまして、整備方法や計画についての説明に入りまして、10月まで合計6回程度の委員会を予定しております。先進地の視察も予定しております。その後、基本方針、基本構想の策定を11月から12月ごろに作り終え、その後、地区の説明会、パブリックコメント、教育委員会への説明、議会の説明等を経て、策定と予定しています。

今後のスケジュール等については以上です。

森谷町長

委員のメンバーとして、地区の代表になると小学校区からの区長さん方を中心に、そこは外せない大事な方だと思うし、保護者世代というか、若い世代も含めて、バランスを取った構成でご議論いただくべきということで、こういった方と検討させていただきました。

皆さんから、このメンバーなり、今後この整備委員会で議論を進めていくわけですが、進めていく上での、意見や確認したいことなどがあれば出していきたいと思います。

児玉委員

整備委員会の委員ですが、これから就学する方の保護者やこの町に移住してきた方など、別の視点で意見を出してくれそうな方々を入れてってはどうかと思います。

森谷町長

今、子供たちを育てている人、若い世代も入っているけれども、他からの視点からも見てきて、これからの河北町ということで、2人ぐらいに入れて、ご意見をいただいてもいいのではないかとということです。

庄司委員

保護者代表の人って、大体小学校の6年生ぐらいの保護者ですか。

後藤係長

皆さん未就学児の保護者、1人だけ園児の保護者で見つからずに1年生の保護者ですが、他の皆さん今未就学児をお持ちの方なので、新しい学校が出来るところにも、小学生の保護者さんになります。

児玉委員

未就学児の保護者で、現在の児童の保護者でない方でしょうか。

後藤係長

小学生のお子さんと未就学児の両方がいらっしゃる方や、就学児しかいない方もいます。

森谷町長

新しい学校が出来るころには、小中学校にはいないという人はいないですよ。

後藤係長

そういった方はいらっしゃらないです。

森谷町長

保護者代表の方はいますが、河北町以外の人、ほかの地域から来られた方、この保護者代表の方にいらっしゃれば良いが、ほとんど河北町で教育を受け、育ち、今子育てしている方だと思いますので、他からの視点の方も入った方が良いといったことですね。

児玉委員

いろいろな会議などで、町以外の時点で河北町を見ると、別の視点の意見もありますので、年代は問わずに、そういうきちんとやっていただける方を入れても良いのではないかと思います。

木嶋委員

児玉委員がおっしゃられる方も入れて良いと思います。また、区長さんや小学校の校長先生、中学校の校長先生は3月で替わると思いますが、会議が6回のうちに3回位出て違う人に替わる、しょうがないと思うんですが、引継ぎというか話の内容的に大変で大丈夫なのかと不安に思っています。

板坂教育長

そこは議事録をきちんと取っていますので、今までの会議も全部きちんと取っ

ていますので、それで引き継ぎたいと思っています。

森谷町長

校長先生は今年度で退職ですが、4月からは替わって引き継ぎをきちっとやります、ということですね。

板坂教育長

さきほど児玉委員がおっしゃられたことについてですが、10番から15番までの方は、いわゆる自分ごととして考えられる該当者を意識して選んでおります。もう1つの視点、ほかの市町から来られた方、そういった該当者がいれば考えいきたいと思います。

児玉委員

1回目の委員会までに追加は厳しいと思いますので、追加もあり得るということですか。

森谷町長

1回目の会議の議題は何を予定していますか。

宇野課長

1回目の会議では、おかれた状況を説明が必要と考えております。委員会での議論を基に教育委員会会議や議会での協議で方針が決まっていくことの認識を持ってもらいたいと思っております。また基本方針・基本構想の議論を進めていく論点整理、これをしないと何を議論すべきか見えてこないと思いますので必要と考えております。もう1点として、小中一貫校、義務教育学校も含めてですが、それが何者なのかに触れていかないと、次の議論に繋がらないと思います。この点が1回目の委員会での議題と考えております。

森谷町長

これまでは6校を1つするところは、議論されて来たと思いますが、1つにする場合は施設一体型か分離型か、さらに一步踏み込んで義務教育学校も見据えていくのか、そういったことの中で、基本方針では、一体型の小中学校と整理しているわけですので、1校することの適否はもちろん意見としてちょうだいしたいですが、一貫校についてのメリットデメリット、先ほど報告のあったような先進事例なども含めて、施設面で、或いは体制面で、教育方針の中に有していく必要があるのか、そういった議論だと思っています。それが学校の整備にも関わってくるし、そのあとの教育振興計画にも繋がっていく部分だと思っています。

30日の1回目の会議に向けてというと厳しいと思いますので、2回目に向けて追加を検討させていただきたいと思います。

森谷町長

それでは、そのほか確認したい事項ありますでしょうか。

森谷町長

令和7年度中に11月ぐらいまでまとめるということで、説明やフィードバックなど、タイトなスケジュールだと思います。丁寧に進めながらも、一つ一つしっかりスケジュールを進めていければと思います。

森谷町長

それではよろしいでしょうか。

(全員了承)

森谷町長

基本方針を作るときには素案を作り、説明会をして案にし、案からパブコメしてと段階を踏んでやってきたわけですが、整備委員会の内容は10月くらいに周知となる考えでしょうか。

宇野課長

施設の形、場所を先に議論が必要と考えております。これに対する一定程度答えが出た時点で、説明会というか、何かしなければと考えております。

森谷町長

基本方針のときは素案、案、確定という3段階を経た訳ですが、今回の基本構想、基本計画については、取りまとめに向けた中間的な整理状況とか、そういった中間報告というか、広く意見を聞く必要があると思うので、6月に整備委員会において基本コンセプトや整備方針について、それぞれ特に議論するスケジュールになっているようなので、6月までの整備委員会の議論で一定程度整理されたら、7月にでも、その中間的なとりまとめ状況について教育委員の方にも、議会にも説明したりとか、住民向けの説明会をしたりなど、何らかの形で町民の方でも検討状況を説明していったらいいと思います。新しい学校の整備に向けた便りを発行するなど、いろいろ情報提供しながら実施設計とか基本設計など順次進めていく必要があると思います。

児玉委員

タイトなスケジュールで進めるにあたっては、先ほど課長さんおっしゃっていましたが、これについて話し合ってもらおうということを、はっきりするべきっていうのは確かだと思います。会議で、小中一貫型小学校・中学校のイメージができない、ということなのだろうとの疑問をお聞きしました。その中身はこの新しくできる整備委員会で議論するとの答弁を教育長さんがしてくださったのですが、もう小中一貫型小学校・中学校、そして施設一体型が決まって、義務教育学校もありうると聞いたことから、あれって思われた方がいたようです。なので、決めるのが整備委員会であるならば、そういう議論すべき中身をしっかりと示して、イメージできるようにしっかり出していただけたらいいのかなっていうのが1点です。あと、中間報告をしたとして、教育委員会はどこにどうやって関わっていくのかと疑問に思っております。

宇野課長

検討委員会で議論した中身を、教育委員会議にも協議内容を報告し、ご意見をいただきたい、また議会の常任委員会の方にも、報告しご意見をいただき、それを検討委員会にフィードバックして議論していく、この方式で回して議論を積み重ねていかないと、駄目かと思っています。そのため教育委員会会議には、検討委員会の話の内容は報告をさせていただいてご意見をいただきたいと思っています。さらに、町民の方にも、こういった内容を出してもいろいろなご意見は出てくると思いますが、どの段階で説明していくか、結論付けていくか、対応していく必要があると思っています。

森谷町長

基本方針の中では、方針として義務教育学学校を目指すとした選択を示しているわけではなく、小中一貫型施設一体型の小学校、中学校、最短で13年度開校というスケジュールから言えば、他町のように、義務教育学学校を目指すという段階にはないと思います。ただ、将来的に義務教育学学校に移行することとなった場合に、施設分離型で整備して義務教育学学校に移行とした場合、何を検討したのかとなってくるかと思っています。近隣の町で義務教育学学校に移行を決めていることから、今後義務教育学学校はどうかという意見が出て来る可能性もあります。また、13年度で考えた場合の児童生徒数は大体800人から700人の間ですが、その後も減っていく、700人を切る可能性もあります。そういった状況も提示すれば、整備委員会などで、義務教育学学校の意見が出た場合に、頭から排除するのではないということです。さらに、基本設計をしていく過程で、義務教育学学校と施設一体型の一貫校で施設整備に係る経費がどうなるのか、そういう意味から、議論の中から排除しないといった意味ととらえています。

児玉委員

素案で示されていた、内容で理解していたところに、基本方針で義務教育学学校も示されたことから、なんだろうとなったのかと思います。こうしたいといった方針をはっきりと出しても良かったかとも思います。

森谷町長

今回報告あった、練馬区やと杉並区の事例などを整備委員会の方にも共有してもらおうとイメージがし易いかと思います。義務教育学校を目指しているところは県内でも多数出てきているが、施設一体型の一貫校は県内で進んでいるところ、学びの事例ってありますか。整備委員会の人たちが先進地として皆さんで東京に行くことは難しいと思うので、県内で学べるところはないですか。

吉田主幹

県内ではないと思います。

宇野課長

コンサルさんから近隣地域で紹介してもらうことも可能と思っています。

森谷町長

整備委員会で議論していく中でも、中間取りまとめ的なものを町民に公表する場合にも、皆さんにイメージしてもらいやすいよう、例えばビデオや写真などで紹介するなど、それぞれの思い浮かべるイメージの中で議論していくより、共通理解のもとに議論をしていく方が良いのではないのでしょうか。

森谷町長

そのほか、ないにございますか。なければ以上でよろしいでしょうか。

(全員了承)

森谷町長

いずれにしても、しっかり整備委員会で議論いただき、その過程の中で教育委員会の皆さんともしっかりフィードバックしながら、議論の状況を町民に説明をしながら、最終的には10月、11月に基本方針、基本構想をまとめて行くよう、

よろしくお願いします。

協議については、以上となります。ありがとうございました。

4 その他

特になし

5 閉会

齋藤係長

これをもちまして、令和6年度 第1回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後4時36分